

入賞 ヒト・モノ・コトが大屋根に集う **道の駅しょうなん てんと(直売所棟)**

建築主: 柏市
 設計: 有限会社ナスカー級建築士事務所
 施工: 広島・古川特定建設工事共同企業体
 城山・森特定建設工事共同企業体
 岡田・トキワ特定建設工事共同企業体
 日進・三和特定建設工事共同企業体
 所在地: 柏市箕輪新田59-2



(撮影: 浅川敏)

人々の通過動線であり、滞留動線にもなる大屋根下ひろば



南側外観

(撮影: 新建築社写真部)

「道の駅しょうなん てんと(直売所棟)」は、手賀沼のほとりに建つ道の駅の拡張プロジェクトである。勾配屋根が連続する大屋根ひろばは地域の新しいシンボルを目指し、催事空間としても活用されている。

住宅の部

千葉県建築文化賞検討会議委員長 北原 理雄

総評

住宅の部への応募は、昨年度を3点上まわる28点であった。質の高い作品も散見したが、全体として住まい方への積極的提案がやや弱いように感じられた。



東側夕景 北東に位置する物見台より見る

(撮影全て: 山内 紀人)

優秀賞の「たがやすいえ」は、南に鋸山、西に三浦半島と富士山、北に東京湾を一望する山頂の住宅である。この一帯は、かつて宅地開発で尾根が削られ、樹木が切り倒されていた。計画は、植生が戻りつつある尾根の環境復元を手助けする思いを込め、崖の安息角に留意しつつ建物を配置したという。

優秀賞

自然再生の為に建築が出来ること

たがやすいえ

建築主: K氏
 設計: 古谷デザイン建築設計事務所
 施工: 株式会社笹原工務店
 所在地: 富津市



リビング・ダイニングルーム

敷地を囲む山々や大型船が行き交う海を望む

優秀賞

**全てを緩やかに繋ぐ余白としての
中廊下のある家**

おおたかの森の住宅

建築主: 山崎博史
 設計: 株式会社須藤剛建築設計事務所
 施工: 株式会社佐久間工務店
 所在地: 流山市



多様な使い方を想定した廊下



北側外観

(撮影全て: 新建築社写真部)

「おおたかの森の住宅」は、既存住宅地の一角に新築された住宅であり、中廊下をはさんで各室を配置したプランをとっている。中廊下は幅2m強、天井高約6m、外壁ガラス張りのゆったりした明るい空間であり、サンルーム、ホール、テラスなど、諸室の延長として家族の生活をつなぐ多彩な機能を持ち、玄関の地窓を通して、プライバシーを保ちつつ街ともつながっている。多くの住宅地で更新が課題となっている現在、ひとつのあり方を示す事例である。